



# 2年連続10億円達成

## 安全で安心な野菜を食卓へ

J Aいわてくじ純情野菜出荷式と久慈地方ほうれんそう躍進大会は、六月十三日、村社会体育館を会場にいわてくじ農協（片座亮一代表理事組合長）、久慈地方農業農村活性化推進協議会（会長・久慈市長山内隆文）主催で行われました。

たびたび冷害に悩まされてきました。しかし、野菜、花き栽培の施設化（パイプハウス）で「ヤマセ」を克服する取り組みが進み、基幹となるホウレンソウは出荷量、販売額とも昨年度に続き十億円の販売額を達成、県内第二位の産地になっています。

片座代表理事組合長が「消費者ニーズに対応した野菜づくりに取り組みます」とあいさつ。



安全な野菜を消費者へと出荷式でテープカット

二年連続十億円の販売額を達成したことで、地域農家の規模拡大志向が高まり、生産意欲は、これまで以上に高まってきています。ホウレンソウに次ぐ品目を育成するためキウリ生産者

久慈地方の農家は、この地方特有の「ヤマセ」の影響を受け、

億円達成は、ヤマセを逆手に取った明るい展望で飛躍が期待できます。三年連続して十億円を達成できるよう頑張ってください。久慈地方の農家は、この地方特有の「ヤマセ」の影響を受け、

実践。「安全・安心」の産地を確立し、環境に優しい農業を推進しようなど、確認し合いました。

一方、野菜の一斤当たりの生産規模はほかの産地に比べて小さく、有利な販売に向けた出荷期間の延長、出荷量の安定化や安全で安心な産地のPRなど、「ホウレンソウで食べられる農家の育成」が新たな課題となっています。

大会では、平成十五年度J Aいわてくじ純情野菜出荷式が行われ参加者が見守る中、テープカット、運転手へ花束贈呈が行われホウレンソウを満載したトラックは市場へむけて出発。

会場となった村社会体育館では鶴鳥神楽、普代荒磯太鼓のアトラクションが披露され参加者たちは舞いと太鼓に見入り感動していました。

大会終了後、視察研修が行われ、三コースに分かれた参加者たちは普代ダムと野山地区のホウレンソウ生産農家の梅垣博継さん（旭日区・三九）のホウレンソウハウスを視察。梅垣さんはシステムエンジニア（コンピューター、ソフトウエアの設計者）として東京都にある会社

で働いていました。自然に関係した仕事に就きたいと平成十二年、新規就農者で村に越してきました。現在は、雨よけホウレンソウのハウス十五棟（六十坪ハウス）、ニンジン二・五畝を妻のかおりさん（三二）と夫婦で経営しています。

### 特別養護老人ホーム「うねとり荘」

### ふれあい交流会

### 手踊りで心和む高齢者たち

ふれあい交流会は、村特別養護老人ホーム「うねとり荘」（野崎貞信施設長、入所者五十人）で、入所者の家族や村デイスーパー利用者約百二十人が参加して行われました。

入所者たちは家族とともに、利扇会（久慈市）が繰り広げる小・中学生の手踊り

ふれあい交流会は、村特別養護老人ホーム「うねとり荘」（野崎貞信施設長、入所者五十人）で、入所者の家族や村デイスーパー利用者約百二十人が参加して行われました。

入所者たちは家族とともに、利扇会（久慈市）が繰り広げる小・中学生の手踊り



しなやかに手踊りする子どもも舞踊家に見とれる入所者たち